

第40回勝山市地域公共交通会議 第24回勝山市生活交通地域協議会 会議録

1. 開催日時 : 令和4年6月29日(水) 午前10時～
2. 開催場所 : WEB会議、市役所3階第1会議室
3. 出席委員 : 下記のとおり※敬称略
4. 欠席委員 : 3名(下記備考のとおり)
5. 傍聴人数 : なし

区分	所属団体及び役職等	氏名	備考
学識経験者	福井大学 教授	野嶋 慎二	
関係機関	福井運輸支局 首席運輸企画専門官	五十嵐 重晃	
	福井県地域戦略部 交通まちづくり課長	堤 宗和	代理:小竹原 優希 主査
	奥越土木事務所 勝山道路課技術次長	橋本 盛夫	代理:佐々木 英樹 企画主査
	勝山警察署 交通課長	高木 省吾	代理:森井 章博 係長
	勝山市区長連合会 会長	杉平 信夫	
	勝山市高齢者連合会 代表	松下 文男	欠席
	勝山市民生委員児童委員協議会 会長	竹内 芳昭	欠席
	えちぜん鉄道株式会社 取締役 営業開発部長	佐々木 大二郎	
	京福バス株式会社 経営推進室 企画営業グループ 部長	吉田 明史	
	勝山交通株式会社 代表取締役社長	山内 誠司	
	大福交通有限会社 代表取締役	中村 雅彦	
	福井県交通運輸産業労働組合協議会	鑑継 英明	
市職員	副市長	小沢 英治	
	政策幹	伊藤 寿康	欠席
	技幹	木下 秀樹	
	福祉政策幹	西 美智子	
	教育委員会事務局長	北川 昭彦	
	商工文化課長	畑中 健徳	
事務局	未来創造課 課長	谷内 英之	
	未来創造課 課長補佐	金谷 久美	
	未来創造課 地域交通係長	廣田 篤史	
	未来創造課 主事	西村 駿人	

## 第40回勝山市地域公共交通会議

### 1. 開会

### 2. 会長挨拶・座長選出

(福井大学 野嶋教授が座長に選出)

### 3. 報告事項

(報告事項1～4について事務局から一括して説明)

#### (1) えちぜん鉄道の運行実績について【資料1】

資料1(1P)をご覧ください。えちぜん鉄道全路線の利用者数の実績で、上の表が月別、下の表が年度別となっています。

えちぜん鉄道交通圏地域公共交通網形成計画では、年間の利用者数の目標は333万人としておりますが、実績は300万3,027人となっており、計画を32万6,973人下回る結果となりました。コロナ前までは開業以降増加傾向にあり、最も多かった平成30年度は369万9,553人の実績があったことから、コロナの影響により下回ったと考えられます。

平成30年度比では69万6,526人(18.8%)の減となっておりますが、令和2年度比では35万2,179人(13.3%)の増となり、新型コロナウイルス感染症の影響による減少から回復傾向にあると考えられます。

月別に見ますと、令和2年度は学校の休業等の影響があったことから、3年度4月～6月は前年度と比べ大幅に増加しました。また10月～12月は感染者数が比較的少なく推移したことから、令和2年度を上回っております。

コロナ前は8月が他の月と比べ多くなってはおりますが、恐竜博物館の休館があったことから少なくなってはおります。

また、資料には記載はありませんが、令和元年と比較しまして、令和3年度の通学定期は95.9%、通勤定期は93.9%、回数券は89.8%と、日常的な利用はコロナ前に近いところまで回復しています。

また、観光などの非日常的な利用は61.6%と、コロナ前と比べると低水準となっております。

#### (2) 市内コミュニティバスの運行実績について【資料2】

資料2(2P)をご覧ください。上の表が路線別・年度別の利用者数の実績、下の表が路線ごとの利用者の比率となっています。

コミュニティバス全体では、令和3年度の年間実績は4万6,756人で、令和2年度比4,739人(11.3%)の増、令和元年度比で2万3,039人(33.0%)の減となっています。

路線ごとの利用者数では、勝山駅から恐竜博物館へ向かう「ぐるりん中部」白山平泉寺へ向かう「平泉寺線、平泉寺・猪野瀬予約便」が令和元年度比で大きく減少していることから、観光客の減少が大きく影響していると考えられます。他の路線についても令和元年度比で減少している路線が多く、市民の方の利用も減少しております。

路線ごとの利用者比率では、多い順に「ぐるりん中部」が1万1,542人で全体の24.7%「北郷予約便」が7,659人で16.4%「平泉寺線、平泉寺・猪野瀬予約便」が6,001人で12.8%となっています。

3ページから5ページまでは路線別、月別の利用者数の推移となっております。

### (3) 市町内交通分析シートについて【資料3】

資料3(6P)をご覧ください。市町内交通分析シートにつきましては、新型コロナウイルス感染症により落ち込んだ乗合バスの利用回復・促進に向けて、各路線の生産性向上のため、令和2年度より各市町にて作成しているものとなります。

対象路線は市町の生活交通維持支援事業補助金における補助対象路線となっており、本市においては、勝山交通(株)様と大福交通(有)様の運行する10路線が対象となっております。

内容としましては、①運賃体系等の路線の概要、②路線の運行回数・利用者数等の指標、③利用状況等から見た路線の必要性、④広域路線への接続状況、⑤生産性向上に関する取組の5項目による構成となっております。実績等については先に説明がありましたので、こちらでは⑤の生産性向上に関する取組についてご説明いたします。基本的にはどこか一つの路線にのみ限定した取組というよりも、全体的なものになりますので、最初の野向線のページをご覧くださいいただければと思います。

令和3年度における取組ということで、まず運転免許証自主返納等支援事業については、令和3年度の申請者数は51名となっております。

池袋暴走事故があった令和元年度に返納が過去最多となり、以降はその反動もあってか、減少傾向にありますが、免許を返納された65歳以上の高齢者の方を対象にバス無料券を配布しており、買い物や通院の際のバスの利用を促進しております。

続いて、昨年度単独の事業として、バス・タクシー利用券配布事業を実施しました。市内在住の①満64歳以上の方、②母子健康手帳の交付を受けた妊婦又は出産後1年以内の方、③障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳のいずれかを所持している方を対象にバス・タクシー利用券4,000円分(100円×40枚)を配布しました。

8,978人に359,120枚を配布し、138,480枚(38.56%)のご利用がありました。

その他、小中学生を対象に通学用の定期券を設けております。

今後の取組については、継続事業は、今後も広報PR活動や乗り方教室などを実施していきます。

また、昨年度実施しましたバス・タクシー利用券につきましては、単年度で終了予定だったのですが、利用者及び事業者の方からもご好評をいただきましたこともあり、今年度も実

施します。

今年度については、高齢者の対象年齢を65歳から60歳にまで引き下げた他、昨年度は市内での乗降が条件でしたが、発着のどちらかが勝山市内であればOKということといたしました。また、バス路線には直接関係はございませんが、えちぜん鉄道様にもご協力をいただきまして、勝山駅で降車された観光客の方を対象にタクシー初乗り運賃相当分の利用券を勝山駅で配布いたします。

実施につきましては、チケットの納品が7月7日予定となっておりますので、以降順次対象者に配布を予定しております。

#### (4) 勝山・大野ラインの中間報告について【資料4】

資料4(16P)をご覧ください。勝山・大野ラインについては令和3年10月に開催いたしました第38回勝山市地域公共交通会議にて承認いただきまして、今年度4月から6月までの土・日・祝日に、えちぜん鉄道勝山駅、平泉寺白山神社、JR越美北線大野駅を結ぶバスとして1日5便運行しております。

6月までの実績が16ページのとおりで、日ごと、便ごと、発着場所ごとに乗車人数を記載しております。4月の運行開始時には勝山市のHPへの掲載や勝山駅及び平泉寺のバス停での掲示のみであったことから、大野市、えちぜん鉄道にも周知を依頼し、HPへの掲載や車内のアナウンス等で案内を実施いたしました。

また、市の公式ツイッター等のSNSを活用するなど周知に努めてきました。その結果、ゴールデンウィークにかけて増加し、5月5日に15人の利用があったものの、その後は伸び悩んでいるというのが現状でございます。

6月で一旦終了し、9月から11月まで同様の運行を予定しております。それに向けて再度、他の方法も含めまして周知に注力していきたいと考えております。

#### ●野嶋座長

今の事務局からの報告について、各事業者から補足説明等ございましたらお願いします。

#### ●えちぜん鉄道 佐々木部長

勝山市から令和3年度の実績をご説明いただきましたが、そちらにもありましたとおり、非日常型のお客様が戻ってきていないというのが現状でございます。観光だけではなく、沿線の色々なイベントや催事もなかったということで、地元の方の土日の利用がないといった点もあげられます。

回数券につきましては、ご高齢の方でお買い物や通院でご利用いただいている方が結構いらっしゃるしまして、そういった方の出控えもまだまだ戻ってきていないというのが現状でございます。

ただ今年度に入りまして少し利用状況は回復傾向にございまして、4月5月を見ますと通勤通学につきましては、元年度を上回る利用となっております。おかげさまで日常的な利用については完全に回復してございまして、ガソリン等の高騰で通勤利用が伸びたりといったことも

影響しています。

非日常型につきましては、完全には戻っていませんが、5月では元年度比で70%まで回復しているということで、今後沿線各市町の催事等が開催されるようになれば少し回復していくのかなと考えています。

#### ●勝山交通 山内社長

当社のコミュニティバスの状況について、2Pの運行実績の棒グラフを見ていただくと、当社で運行しておりますのは、鹿谷線、北郷予約便、荒土線、荒土・野向予約便、野向線となります。

この中で目につくのが荒土線と野向線の利用者が大変少ないということかと思えます。

正直に申し上げまして、北郷予約便などは朝は利用が多いですが、この2路線は少ないのが現状です。

この点について私の見解ですが、利用者は高齢者が当然多いわけですが、足腰の衰えに伴いまして、だんだんと乗降がしづらくなってきて、バスの利用が困難になっておられる方や、介護施設に入居される方、介護が必要となって子供の暮らす県外に引っ越される方などがいらっしゃるしまして、利用数が減少しているということが大きいのではないかと考えています。

一方で、乗らなくなった方に比べて、新規利用者が少ないというのも減少の理由の一つかと思えます。

冬季については雪の影響で中学生や高校生の利用が増えるため、利用者数はある程度増加しますが、これは冬期間のみの限定的なものにとどまっています。

利用者の減少を食い止めることが難しい現状を考えると、今後は利用者を増やしていくことが重要であると考えます。

一つの案として野向線、荒土線は7時10分発、7時50分発に設定されていますが、この時間に対応する午前中に街中から村部に帰るための便が設定されていないため、早朝の便に合わせて帰る便の設定もひとつの方法かなと思っています。

#### ●野嶋座長

ありがとうございました。

便を増やせるといいのは勿論ですが、これは経営的に厳しい気もしますが。

#### ●勝山交通 山内社長

それは確かにそうですね。ただやはり行き帰りが対応していない片道だけの便だと利用しにくいというのはあると思います。

#### ●大福交通 中村代表取締役

うちのコミュニティバスは生活路線と観光路線とが混合になっている路線が多いのですが、観光路線が少ないのが一つのウィークポイントかと思えます。

お年寄りが観光に来られるのは土日祝日だけではなく、やはり平日のウィークデーに来ら

れる方もいるので、そういった方で平泉寺線に乗り残しのお客様が出たということがございました。

やはり観光路線というのはウィークデーというのも充実させていかないといけないのかなということを感じております。

当然予算の問題等もありますがその辺を少し改善していければ。勝山に来られる観光客の方はまだまだ増やせるのではないかなと考えています。

生活路線に関しては令和2年よりは少しずつお客様が戻ってきています。うちの生活路線に関しては全部のバスがバリアフリーに対応しておりますので、お年寄りもお子さんも乗りやすくなっているのかなと考えています。

●野嶋座長

ありがとうございました。

それでは、以上の報告に対しまして、質問等がありましたらお願いします。

●勝山市区長連合会 杉平会長

バスの車体の色がまちまちで、勝山市でバスを統一できないのかという話を市民の方からお聞きします。費用もかかりますので難しいと思いますが、路線ごとということではなく、統一していただくようなことが出来たら良いと思います。

○事務局 谷内課長

同様のご意見を伺ったことがあります。市の問題として取り組んでいく必要があると思いますので、検討いたします。

●野島座長

報告事項4で勝山大野ラインの中間報告をいただいたと思います。実際にこのバスが活用されているのかなと思っているのですが、当初予想よりも多いのか少ないのかとか、平日に観光に来るといった話もあったと思いますが、今の印象や現状について何かあれば。

○事務局 廣田係長

4月から6月までの実績ということで、利用の一番多かった5月5日で15人ということでございました。その右側には参考に市内観光バス「ダイナゴン」の同日の利用者数を記載しておりまして、こちらのバスは勝山駅から平泉寺、恐竜博物館等を結ぶ観光バスになっております。

こちらの方は多い時で30人程度の利用ということで考えますと、私の個人的な思いとしては、最低でもこの30人ほどまでは行きたいというふうに考えております。

●えちぜん鉄道 佐々木部長

今の勝山大野ラインの話で、これは勝山大野の周遊観光の企画ということで、3年前から

計画していたものになります。

令和2年からスタートする予定でいましたが、コロナになり2年間ずっとできなかったということと、需要調査を含めてこういう運行をして、その後の新幹線に向けてどういう風にやっていこうかという思いもありました。

初年度ということでなかなか予測がつかない中で運行しているというのが現状かなと認識しています。観光を増やしていかないといけないという中で、今年度の実績を受けてどうしていくのかということは、勝山大野の観光部局と事業者と話をして決めていく必要があると思います。

我々としても周知広報が上手くできていなかったということもあったので、ホームページをリニューアルするにあたって、しっかり広報していきたいと思います。

そういった関係機関と協力してやっていくとまた利用につながると思いますし、そういった背景も含めてご理解いただければと思います。

#### 4. その他

(その他の報告事項等なし)

##### ●野嶋座長

以上で勝山市地域公共交通会議を終了させていただきます。

引き続き、勝山市生活交通地域協議会に移ります。

## 第24回勝山市生活交通地域協議会

### 1. 役員選出

### 2. 報告

#### (1) 令和3年度地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）の二次評価結果について【報告1】

1ページの報告1をご覧ください。まずはじめに地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）とはということですが、こちらは、地域の公共交通の確保・維持、利便性の向上等の取組みについて、国が支援するために創設された事業です。勝山市では平成27年にこの協議会で協議を経て国に申請し認定されました。以降は毎年ローリングを行いながら申請をしています。

フィーダー系統とは、地域間交通ネットワークと接続する系統をいい、もう少し噛み砕いた言い方をしますと、複数の市町村をまたぐ幹となる路線、これを幹線としますと、幹線に接続する枝となる路線を支線、フィーダー系統といいます。

勝山市では幹線「京福バス勝山大野線」に接続している支線「北郷予約便（勝山交通）」と「平泉寺・猪野瀬予約便（大福交通）」の2路線が対象となっています。

この事業は、毎年春に計画を作成し、後ほどの議案にもありますが、本協議会で承認を得た上で提出し、冬に自己評価を実施し、国から評価を受けることになっています。

その評価結果についてが、資料にあります二次評価結果となります。

まず評価点についてですが、昨年度は地域公共交通計画を策定するにあたりまして、市民アンケートを実施しました。この結果について分析を行い、計画策定へと繋げていることを評価いただきました。また、利用促進については、先ほど交通分析シートでも述べた利用券の配布や、通学定期補助等について、評価をいただきました。

今後期待されている取組についてですが、幹線系統勝山大野線の輸送量が減少傾向にあることから、情報共有や利用促進・系統維持について、県や関係者と連携しながら取り組んでいくことということで、現在においては国・県・大野市様と、経費の補助を行っております。

また、勝山と大野の観光地を結ぶバス「勝山大野ライン」の試験運行について、試験運行実施後の検証をし、今後の取組に反映することということで、現在運行いただいている大福交通様には、毎週定期報告をいただいている他、毎月末にはその月の実績をいただいておりますので、市の方でデータの積み上げも行っておりますので、今後活かしていきたいと考えております。

#### ●野嶋座長

事務局からの説明に対しまして、質問・意見等がありましたら、お願いします。

（質問・意見なし）



### 3. 議題

#### (1) 勝山市生活交通地域協議会設置規約の改正について【議題1】

それでは、資料の3ページをご覧ください。

規約の改正ですが、令和4年度になり機構改革によって公共交通関係が未来創造課の担当となりましたので、併せて事務局も未来創造課へ変更とさせていただきます。

また、4ページをご覧ください。同様に行政管理幹が政策幹と役職名の変更がありましたので、修正させていただきます。

#### ●野嶋座長

ありがとうございました。

事務局より提案のありました議題1についてはよろしいでしょうか。

(議題1について承認)

それでは議題2について、事務局より説明をお願いします。

#### (2) 令和5年度生活交通確保維持改善計画のローリングについて【議題2】

それでは、資料の5ページをご覧ください。

先ほど報告事項でご説明しました生活交通確保維持改善計画の令和5年度申請案になります。

勝山市においては、市民が生活する上で必要な公共交通期間の運行・維持がなされているものの、夫婦共働きなどにより、免許証の取得率も高く、モータリゼーション（車社会化）が進展しているため、クルマが生活必需品となっています。また、商業・公共施設等の点在化が進み、クルマに依存したライフスタイルが市民の間に浸透・定着化しています。このような状況の中で、公共交通機関の利用者は年々減少を続け、生活交通の維持確保が厳しさを増しております。

そこで、平成23年から本協議会を設置し、勝山市に適した交通施策・運行スタイル等の研究を行ってきた他、他市町の視察や、各地区での意見交換会、住民意識調査等を重ねてきました。昨年度には勝山市地域公共交通計画を策定し、利用しやすい効率的な公共交通の在り方について、基本方針を定めました。

6ページをご覧ください。本計画の対象となる北郷予約便及び平泉寺・猪野瀬予約便の事業目標および実績になります。令和5年度から令和7年度までの年間利用者数目標を資料のとおり定めました。また、参考として令和3年度時の目標値と実績値を記載しております。平泉寺・猪野瀬予約便については、コロナの影響で減少しておりますが、北郷予約便においては3年度の目標値を47人上回ることができました。

また、3番の「目標を達成するために行う事業及びその実施主体」については、マイ時刻表の作成や、乗り方教室の実施による利用促進、京福バス勝山大野線でのOD調査を実施し、分析結果に基づいた利用促進啓発や免許返納支援事業との連携強化による、車の運転に不安を感じている方々へのバスの利用促進を行ってまいります。

7ページをご覧ください。6番の目標・効果の評価手法及び測定方法については、さきほど申し上げたOD調査や、高校生アンケートにより実施してまいります。

9ページ10ページはこれまでの協議会等の開催状況の一覧となっております。

11ページはこれまでの意見の反映状況等についてです。意見交換会の開催やアンケートの実施、その結果を受けた、車両の小型化、デマンド区間の導入、交通計画の策定等について記載されております。

以降は別紙となりますが、12ページは各路線の目的・必要性について記載しております。北郷予約便については、当該地域を区域運行することにより、区域内をきめ細かくカバーしながら中心市街地の医療機関や商業施設等への移動手段を確保することで、高齢者等交通弱者の外出機会の拡大を図るとともに、これらの施設で地域間幹線系統等に結節することで、中心市街地への移動等、広域的な移動利便性を向上することを目的として運行するものです。

また、平泉寺・猪野瀬予約便については、隣接する地区を走る平泉寺線を当該地域にも区域運行で乗り入れすることにより、これらの集落の高齢者やクルマを運転しない層を主たる対象として、中心市街地への移動手段を確保し、地区内の日常生活施設の利用利便性を向上させるとともに、路線バスとの乗継等による広域的な移動利便性の向上を目的として運行するものです。

13ページについては事業の効果ということですが、前述したとおり、移動手段の確保及び利便性の向上等を見込んでおります。

14・15ページについては、各路線の現在の運行時刻等になっております。どちらも定時定路線と区域運行のハイブリッドになっており、毎日運行を行っております。

16ページの運行予定者の決定方法については記載のとおり定めがございますが、後述します大福交通様と勝山交通様にお願いする形となっております。

17ページについては、各路線等の関係性や整合性等について記載しております。北郷予約便については、北郷地区から勝山市中心部方面を通り大野市まで向かう広域的な移動を担う路線バスの空白時間帯に運行し、福井勝山総合病院や勝山駅で接続できるようダイヤを設定しています。また、従来、勝山市街地へのバス利用が著しく不便な時間帯に当該便を運行することにより、勝山市街地への移動が可能になっただけでなく、乗継による大野方面までの広域的な移動が期待できます。

平泉寺・猪野瀬予約便については、京福バス勝山大野線を補完するよう、路線バスの空白時間帯に運行し、かつ、大野方面への接続も考慮してダイヤを設定しています。当該路線の新設によって、従来路線バスへの乗り継ぎが困難であった平泉寺地区や、路線バスが運行しているがバス停まで遠かった猪野瀬地区において乗り継ぐことができるようになり、路線バスの利用増が期待できます。

18ページについては、運行システムの概要及び運送予定者になります。前述しましたとおり勝山交通様及び大福交通様に運送をお願いしております。運行システムについては、どちらも勝山駅を起点に総合病院を経由し、各地区のバス停が終点となっております。運行回数等は記載の計算例に基づいて計画しております。

19・20ページは事業を行う地域の概要ということで、人口等は令和2年国勢調査の数字等をベースにしております。

●野島座長

目標達成のために行う事業は前年度からの継続ということでよろしいでしょうか

○事務局 西村主事

昨年度から継続して実施する事業でございます。

●野嶋座長

事務局からの説明に対しまして、その他に質問・意見等がありましたら、お願いします。

(質問・意見なし)

それでは事務局より提案のありました議題2についてはよろしいでしょうか。

(議題2について承認)

ありがとうございました。それでは、今後細かい表記の訂正等がございましたら、それらについては事務局で対応させていただきたいと思えます。

それでは議題3について、事務局より説明をお願いします。

**(3) 令和3年度勝山市生活交通地域協議会歳入歳出決算について【議題3】**

21ページをご覧ください。令和3年度の協議会歳入歳出決算になります。

歳入の部については勝山市からの負担金700万円、交通計画および利便増進計画の策定にかかる国庫補助で254万8,500円、諸収入36円の利息で合計9,548,536円になります。

続いて歳出の部については、交通計画等の策定にかかる事業費で8,248,801円となっております。

以上歳入9,548,536円から歳入8,248,801円を差し引いた1,299,735円を市負担金残として返納しました。

22ページは、会計監査報告書となっております。監事2名に監査をいただきました。

●野嶋座長

事務局からの説明に対しまして、質問・意見等がありましたら、お願いします。

(質問・意見なし)

それでは事務局より提案のありました議題3についてはよろしいでしょうか。

(議題3について承認)

4. その他

(その他の報告事項等なし)